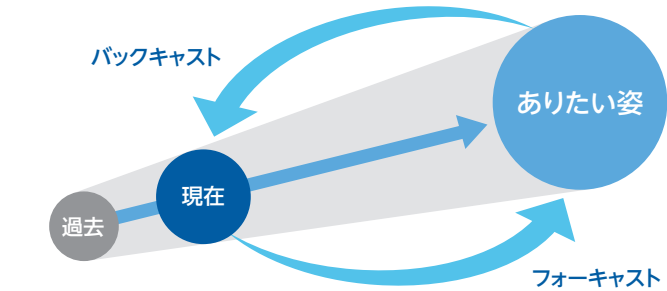


ありたい姿の実現に向けたマテリアリティ

ホシザキグループは存在意義（パーパス）のもと、長期的にありたい姿の実現に向けてマテリアリティ（重要課題）を特定し、その解決に向けてさまざまな取り組みをおこなっています。5ヵ年経営ビジョンは長期的にありたい姿からバックキャストし、経済価値の目標を設定して高めるだけでなく、社会・環境価値や向上を目指しています。



マテリアリティの抽出・特定プロセス

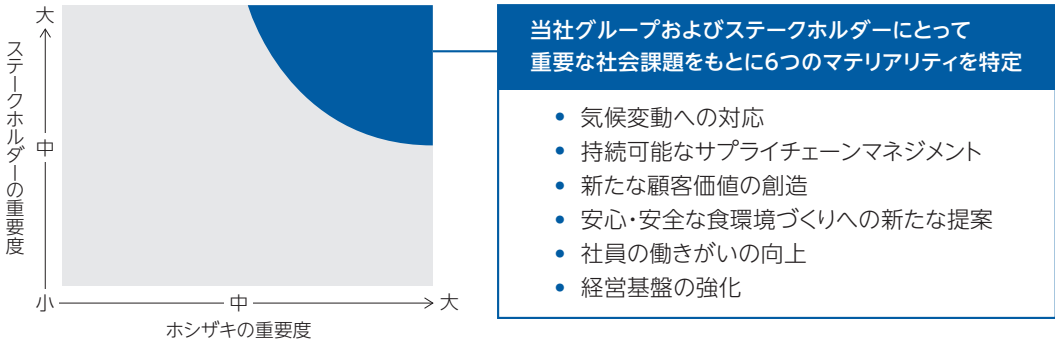
当社は2022年に幅広い社員とともに、さまざまな社会課題を議論・検討したのち、社外取締役などからの意見も踏まえて、6つのマテリアリティを抽出・特定しました。

Step 1	サステナビリティ課題のテーマ抽出	競合企業、ESG評価格付け機関、経済的な潮流、業界・専門家へのレビュー、データ分析により候補となるテーマを抽出
Step 2	重要度の評価とマッピング	ホシザキ軸の評価（内部資料の分析、経営陣ヒアリング、社内ワークショップ）とステークホルダー軸の評価でマッピング
Step 3	妥当性の検証	社外取締役との議論を通じ、社外視点を取り入れ妥当性を検証
Step 4	特定、承認	候補テーマの中でも特に優先的に取り組むべき課題を特定し、取締役会での議論を経て承認

マテリアリティとサステナビリティの関係、関連するSDGsゴール、KPI

マテリアリティ	貢献するSDGsゴール	ありたい姿との関連性	KPI	目標値・年	2023年12月期実績	関連ページ
気候変動への対応	 	世界的な気候変動問題に対し、快適な食環境の提供（ビジネス）を通じて、環境課題解決に貢献	脱炭素社会の実現に向け、事業活動からのCO ₂ 排出量削減	2030年までにCO ₂ 排出量（スコープ1&2）30%削減（2023年比）	スコープ1&2CO ₂ 排出量：+3.2%（2022年比）※ ※ホシザキ本社工場および島根工場 ▶ p.10もご参照ください。	p.54
持続可能なサプライチェーンマネジメント	   	環境や人権に配慮したサプライチェーンにより、廃棄物を最小限に抑え、健康で安全な労働条件を促進	①環境保全（廃棄物等）、人権・労働（安全）などを含むサステナビリティに関する調達先調査 ②取組成果向上のための調達先との持続的なコミュニケーション	①調査質問票を策定（2023年）重要取引先様回答回収率95%以上（2026年）（ホシザキ） ②工場方針説明会への重要取引先様出席率95%以上（2026年）（ホシザキ）	工場方針説明会への重要取引先様出席率：98%	p.59
新たな顧客価値の創造	  	お客様を取り巻く環境変化を迅速にキャッチし、変化へ柔軟に対応したモノづくり、サービスビジネスを創造	今後拡大を目指す、多様な飲食外市場のお客様への貢献	飲食外売上高1,000億円（2026年）（国内）	飲食外売上高（国内）：894億円	p.57
安心・安全な食環境づくりへの新たな提案	 	多様化する食環境の変化に対して、安全、安心な製品やサービスを提供し、人々の豊かな暮らしに貢献	全国を網羅する拠点数の強みを生かした製品保守、サービスコール対応を通じたお客様への安全、安心の提供	サービス売上高522億円（2026年）（国内）	サービス売上高（国内）：463億円	p.58
社員の働きがいの向上	 	すべての社員が多様な価値観を共有し、互いに尊重しあい、誇りを持って働く、活力あふれる職場風土への進化	女性管理職の育成と次期女性管理職候補の育成確保	女性管理職（課長相当職以上）50名、女性役職者（係長相当職以上）300名（2025年）（国内）	女性管理職：28名 女性役職者：219名	p.61- p.64
経営基盤の強化	 	コーポレート・ガバナンスの強化および徹底したコンプライアンス遵守により、社会から信頼される経営の実践	①コンプライアンス経営の基盤強化 ②社員への網羅的なコンプライアンス教育の継続	①重大なコンプライアンス違反なし（グローバル） ②社員全員へのコンプライアンス教育実施（グローバル）	コンプライアンス・リスク管理委員会の開催（12回） コンプライアンス・リスク検討会の開催（32回） 法令動向研究会の設置 国内・海外のすべてのグループ会社でコンプライアンス研修を実施（731回開催、14,679名参加）	p.76- p.78

● マテリアリティ分析



ホシザキグループのマテリアリティ

当社グループの6つのマテリアリティを通じて、持続可能な開発目標（SDGs）17のゴールのうち、10のゴールの達成へ貢献しています。2023年には、株主や投資家との対話・エンゲージメントから得られた要請も考慮しつつ、実効性を高めるため、各マテリアリティにワーキンググループ（WG）を設置しました。WGの進捗はサステナビリティ委員会で報告し、議論を重ねています。長期的にありたい姿の関連性を踏まえて、サステナビリティ戦略を着実に遂行していくために、サステナビリティ委員会の議論を経て、2023年に全てのマテリアリティに達成目標・年を含むKPIを設定しました。進捗状況を毎年、評価・モニタリングすることで、社内への浸透や事業戦略との一体化を図っていきます。マテリアリティは社内外環境の変化を考慮し、必要に応じて見直しを検討していきます。

ホシザキグループは、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）を通じて、ステークホルダーの皆様への価値創出を目指します。